

## FY22 Q4 決算発表後に多かったご質問とご回答

### 全体

- Q 生成 AI が当社の業績に与える影響を教えてください。
- A 生成 AI の発展により、以下の 2 事業が影響を受けると考えています。
- ブランクス：GPU 需要が増加し、その製造に EUV 向けを含むブランクスが必要になります。現在は AI 用 GPU 製造に使われているブランクスは少ないですが、今後の成長を期待しています。
- HDD 基板：また、生成 AI の発展によりデータセンターで保管されるデータ量が増加し、HDD とディスク基板の需要が増加する可能性があります。現在の生成 AI はテキストベースのものが主流でかつ参照するデータ量は多くはないようですが、今後、参照データの拡大や画像/動画等に用途が拡大することでデータ量が増加する可能性があります。
- Q 今後、事業ポートフォリオを整理していくとのことですが、どのような事業が対象となる見込みですか？
- A 当社の強みとの関連性が低い事業、今後の成長ドライバーにならない事業、3 つの注力分野「見る・健康・情報社会のサポート」に属していない事業の整理を規模の小さい事業から開始しています。

### ブランクス

- Q FY22 Q4 のブランクス売上が予想に対して上振れた背景を教えてください。（予想-15% YoY、実績-6% YoY）FY23 Q1 もこの傾向は続きますか？
- A 製品・顧客ミックスが想定以上であったことなど、複数の要因により想定以上の売上となりましたが、一時的であることから FY23 Q1 の見通しは変えていません。
- Q 次の四半期(FY23 Q1) に 15%減収 YoY と見込む背景を教えてください。顧客、EUV/DUV による調整度合いの差はありますか？
- A 主にサプライチェーンにおける在庫調整によるものです。過去数年の間、新型コロナウイルスによる供給の混乱などに備え、サプライチェーン全体において在庫水準が上昇していましたが、新型コロナウイルスの終息などによりこうした BCP(Business Continuity Plan)関連の在庫水準を引き下げる動きが起きています。顧客の R&D 活動は引き続き活発で、先端ノードである 2 ナノにおけるサンプルワークを全ての顧客とおこなっています。
- EUV/DUV 別では、EUV の調整幅が大きいです。在庫調整はほぼ全ての顧客で起きていますが、調整の度合いに差はあります。
- Q EUV ブランクス売上の CAGR 見通しをこれまでの 20%から 10%に引き下げた背景を教えてください。今後の設備投資計画へ影響はありますか？
- A EUV ブランクスは過去数年において在庫確保の動きにより需要が膨らんでいたと思われるので、今後の CAGR についてはこれを割り引く必要があります。しかしながら、EUV ブランクス需要が長期的に拡大することには変わりなく、FY22 Q4 に新たな装置の発注もおこなうなど、中長期での設備投資計画も変えていません。
- Q FY23Q1 に 15%減収となった際の利益への影響を教えてください。
- A FY23Q1 の情報・通信事業の営業利益率は Q4 からやや下がると見えています。Q4 は HDD 基板部門における在庫調整からの反動増とブランクス部門での売上面での一時的要因がありましたが、Q1 ではこれらがなくなるためです。

## FPD マスク

Q BOE との合併会社設立の目的を教えてください。また合併会社の業績寄与はいつごろを見込んでいますか？

A さらなる需要拡大が見込まれる中国市場への橋頭保の構築、顧客とのより密接な開発・販売活動の実現を図るため合併会社を設立しました。現在、中国・重慶に工場の建設を進めており、2024 年初頭より現地生産を開始する予定です。

## HDD 基板

Q FY22 Q4 売上は Q3 比で大幅改善しましたが、FY23 Q1 に再度調整する背景を教えてください。

A FY23 H1 は-20%超 YoY、FY23 Q1 は前年 Q1 の需要が強かったため、-30%で見えています。FY22Q4 において、ガラス基板の在庫調整は概ね終わったものの、最終顧客であるデータセンターが景気の停滞により設備投資を抑制しているためです。しかしながら、今後も情報化社会の進展により HDD 市場の成長見通しに変化はありません。

Q 複数の HDD メーカーが HAMR (Heat Assisted Memory Recording) HDD の市場投入について言及しています。HAMR HDD の販売が本格化した場合の当事業への影響を教えてください。

A HDD ディスク基板市場におけるガラスのシェアが高まると考えています。HAMR HDD に使用されるディスクの磁性膜の製造プロセスで従来よりも高温の熱が発生するため、アルミニウム合金よりも耐熱性の高いガラス基板が必要となります（耐熱温度 アルミニウム合金 290℃、ガラスは 691℃度）。HAMR HDD が実現した場合、記録容量が既存のニアライン HDD に比べて一気に約 50%増加することから、他の HDD メーカーも HAMR の採用を進め、結果的にガラス基板によるアルミニウムディスク基板の置き換えが加速すると考えているためです。

Q 在庫調整終了後、ニアライン HDD/基板市場とは以前と同じペースで成長しますか？

A 現在の状況は一時的な調整であり、情報化社会の進展等がドライバーとなり、長期的な成長が継続すると想定しています。

## 映像

Q アプリケーション別の業績と今後の見込みを教えてください。

A 交換レンズ向けは好調でしたが、監視カメラ向けは中国におけるゼロコロナ政策等の影響によりマイナスとなりました。監視カメラ向けの需要停滞は当面続く見込みですが、交換レンズ向けと車載カメラ向けで補い、事業全体として堅調な業績を見込んでいます。

## メガネレンズ

Q 4Q は 2 桁成長でしたが、今後も続けられそうでしょうか？

A 4Q はコロナ禍からの反動等の一時的要因により 2 桁成長となったため FY23 は成長がやや落ち着くとみえています。しかしながら、も米国でのインディペンデント/チェーン顧客の新規契約獲得、中国における MiYOSMART の拡販などにより、市場成長率を上回る成長を見込んでいます。

Q MiYOSMART(近視進行抑制レンズ) の販売状況はいかがですか？ また他の地域での販売開始スケジュールを教えてください。

A 既にメガネレンズの売上高の 7%程度を占めており、今後も急成長が期待されます。現状は 30 カ国強の国で発売していますが、各国の規制当局からの認可を受け次第、販売エリアを拡大していきます。またサングラスタイプなど製品ラインナップの拡充を図ります。

## **コンタクトレンズ**

- Q 現在のプライベートブランド(PB)売上が事業全体の売上に占める比率を教えてください。また PB 比率について中期的な目標がありましたらお聞かせください。
- A 現在、デイリーレンズのカテゴリーでは、PB が売上の 2 割近くを占めており、中期的には 40%以上の比率を見込んでいます。

## **内視鏡**

- Q 米国の販売が低調であった背景を教えてください。
- A 米国における販売は回復傾向にあるものの YoY でマイナスが続いています。市場は堅調であるため、当社内部の要因と考えています。今後営業組織の強化、販売施策の見直しなどにより成長軌道への回帰を目指します。
- Q HOYA の他の事業に比べて売上成長率、利益率が低い。今後についてどのように考えていますか？
- A 各国の法令・規制への対応に伴う一時的な費用増や新型コロナ影響による部材不足などで、売上成長率や収益性向上が停滞しておりましたが、今後は新製品の拡販、米国事業のテコ入れなどにより成長軌道への回帰を図ります。

## **眼内レンズ**

- Q 新しい三焦点眼内レンズの拡販状況を教えてください。
- A 欧州主要国で三焦点眼内レンズの販売を開始しています。三焦点眼内レンズは事業の収益成長を牽引していくと期待しています。

以上

## **将来予測に関する記述**

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。

歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。

これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問などの影響を含みます。

当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。

また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません

お問い合わせ先:h-ir@hoya.com